



第2期

島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

(令和2年度～令和5年度)

総合評価書



令和6年9月作成

島 田 市

目 次

総合戦略の評価・検証について（P D C Aサイクルの確立）	1
総合戦略の総合評価・検証結果	
総合戦略の評価対象と評価方法	6
総合戦略総合評価・検証結果（行政による自己評価）	
「『人口減少』克服・適応」の評価	8
「施策の目標」の基準値及び目標値に対する評価	10
「重要業績評価指標（K P I）」の基準値及び目標値に対する評価	
【基本目標 1】	12
【基本目標 2】	14
【基本目標 3】	16
【基本目標 4】	18
総合戦略評価・検証結果（外部評価）	20

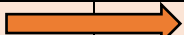
【資料】総合戦略の進捗管理表

総合戦略の評価区分について	22
総合戦略達成状況及び評価について	24
総合戦略達成状況確認表	
【基本目標 1】	26
【基本目標 2】	30
【基本目標 3】	32
【基本目標 4】	36

第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の 評価・検証について（P D C Aサイクルの確立）

1 はじめに

令和4年12月23日閣議決定の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を受け、令和6年3月、「第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「第2期総合戦略」という。）」を改訂し、「島田市デジタル田園都市構想総合戦略（以下、「デジ田総合戦略」という。）」を策定した。デジ田総合戦略の計画期間を令和6年度～令和9年度と定めたことから、第2期総合戦略の計画期間（令和2年度～令和6年度）は令和5年度をもって終了となったため、令和2年度～令和5年度の総合評価を行った。

年度		…	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	…
第1期 総合戦略	計画期間			満了					
	評価・検証								
第2期 総合戦略	計画期間		開始					終了	
	評価・検証								
デジ田 総合戦略	計画期間						開始		
	評価・検証								

2 取組内容

- ・令和2年3月に策定した「第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の着実な推進を図るため、重要業績評価指標（K P I）による事業評価、検証を行い、必要に応じて改訂するという一連のサイクルを実施した。（P D C Aサイクル）
- ・産官学金労言の代表者で組織している「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」や市内金融機関代表者と組織している「島田市まち・ひと・しごと創生金融機関会議」で外部評価を行い、評価の妥当性、客観性を担保したうえで、施策の見直しや改善を行い、総合戦略の実効性を高めてきた。

3 評価方法

P（プラン）：第2期総合戦略（R2～R5の4年間）
目標人口（年少人口割合、生産年齢人口割合、高齢化率）
施策の目標9項目

D（計画の実施）：施策、事業の実施

C（評価）：①自己評価

- ・行政（事業所管課等）による評価、分析
- ・島田市デジタル田園都市構想推進本部幹事会幹事会
（旧称：島田市まち・ひと・しごと創生推進本部幹事会）
- ・島田市デジタル田園都市構想推進本部
（旧称：島田市まち・ひと・しごと創生推進本部会議）

②外部評価

- ・島田市デジタル田園都市構想市民会議
(旧称：島田市まち・ひと・しごと創生市民会議)
- ・島田市デジタル田園都市構想金融機関会議
(旧称：島田市まち・ひと・しごと創生金融機関会議)

③議会への評価書の提出（９月）

A（見直し・改定）：評価結果に基づき、次年度施策に反映

4 会議実績

●推進本部幹事会

【島田市まち・ひと・しごと創生推進本部幹事会】

年度	開催日	内 容
R 3	7月20日	R 2年度第2期総合戦略の評価・検証
	8月18日	R 2年度第2期総合戦略の評価書（案）について
R 4	6月28日	R 3年度第2期総合戦略の評価・検証 第2期総合戦略の改訂の方向性について
	2月24日	第2期総合戦略の改訂について R 4年における島田市の人口動向について
R 5	5月23日	デジタル田園都市構想総合戦略（仮称）の策定について 総合戦略及びDX推進計画改訂に係る各課とのヒアリングについて
	7月28日	R 4年度第2期総合戦略の評価書（案）について 新たな総合戦略の名称・地域ビジョン・概要版の案について
	10月17日	デジタル田園都市構想総合戦略の素案について
	2月13日	デジタル田園都市構想総合戦略（最終案）について R 5年における島田市の人口動向について 島田市における少子化対策の現状と課題について

【島田市デジタル田園都市構想推進本部幹事会】

年度	開催日	内 容
R 6	7月9日	R 5年度第2期総合戦略の評価書（案）について 第2期総合戦略の総合評価書（案）について

●推進本部会議

【島田市まち・ひと・しごと創生推進本部会議】

年度	開催日	内 容
R 3	7月27日	R 2年度第2期総合戦略の評価・検証
	8月23日	R 2年度第2期総合戦略の評価書（案）について
R 4	7月12日	R 3年度第2期総合戦略の評価・検証 第2期総合戦略の改訂の方向性について
	3月10日	第2期総合戦略の改訂について R 4年における島田市の人口動向について

年度	開催日	内 容
R 5	5月30日	島田市デジタル田園都市構想総合戦略（仮称）の策定について 総合戦略及びDX推進計画改訂に係る各課とのヒアリングについて
	8月8日	R 4年度第2期総合戦略の評価書（案）について 新たな総合戦略の名称・地域ビジョン・概要版の案について
	10月24日	高校生ワークショップについて デジタル田園都市構想総合戦略の素案について
	2月29日	デジタル田園都市構想総合戦略（最終案）について R 5年における島田市の人口動向について 島田市における少子化対策の現状と課題について

【島田市デジタル田園都市構想推進本部会議】

年度	開催日	内 容
R 6	7月23日	R 5年度第2期総合戦略の評価書（案）について 第2期総合戦略の総合評価書（案）について

●市民会議

【島田市まち・ひと・しごと創生市民会議】

年度	開催日	協議・報告事項
R 3	10月12日	R 2年度第2期総合戦略の評価、検証について 地方創生推進交付金等事業について
	3月22日	R 3年における島田市の人口動向について 転入者・転出者アンケート結果について
R 4	10月12日	R 3年度第2期総合戦略の評価・検証について 第2期総合戦略の改訂の方向性について 多様な主体と協働・連携した地域を支える人材育成について
	3月22日	第2期総合戦略の改訂について R 4年における島田市の人口動向について
R 5	8月28日	R 4年度第2期総合戦略の評価・検証について デジタル田園都市構想総合戦略の策定について
	11月7日	デジタル田園都市構想総合戦略（案）について
	3月22日	デジタル田園都市構想総合戦略（最終案）について R 5年における島田市の人口動向について 地方創生に関する島田市の取組

【島田市デジタル田園都市構想市民会議】

年度	開催日	内 容
R 6	8月6日	R 5年度第2期総合戦略の評価書（案）について 第2期総合戦略の総合評価書（案）について

●金融機関会議

【島田市まち・ひと・しごと創生金融機関会議】

年度	開催日	協議・報告事項
R 3	10月5日	R 2年度第2期総合戦略の評価、検証について R 3年度主要事業の実施状況について
	3月17日	R 3年における島田市の人口動向について 転入者・転出者アンケート結果について
R 4	8月22日	R 3第2期総合戦略の評価・検証について 第2期総合戦略の改訂の方向性について R 4年度主要事業等実施状況報告
	3月22日	第2期総合戦略の改訂について R 4年における島田市の人口動向について
R 5	8月24日	R 4第2期総合戦略の評価・検証について デジタル田園都市構想総合戦略の策定について R 5年度主要事業等実施状況報告
	11月9日	デジタル田園都市構想総合戦略（案）について
	3月21日	デジタル田園都市構想総合戦略（最終案）について R 5年における島田市の人口動向について 地方創生に関する島田市の取組

【島田市デジタル田園都市構想金融機関会議】

年度	開催日	内 容
R 6	8月19日	R 5年度第2期総合戦略の評価書（案）について 第2期総合戦略の総合評価書（案）について R 6年度主要事業等実施状況報告

第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

総合評価・検証結果

第2期総合戦略の評価対象と評価方法

1 『人口減少』の克服・適応の評価について

(1) 評価指標・対象と比較対象

第2期総合戦略では、「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（以下、「人口ビジョン」という。）」※¹の「2060（令和42）年目標人口 8万人」を目指すための目標として、「2024（令和6）年の目標人口」及びその「年齢3区分別人口割合（年少人口割合、生産年齢人口割合、高齢化率）」を設定している。そのため、「推計人口」及び「年齢3区分別人口割合」を指標として『人口減少』の克服・適応」を評価した。

評価対象は令和5年実績値とし、「推計人口」は「静岡県の推計人口（令和6年1月1日現在）」※¹の島田市の人口総数（推計）を、「年齢3区分別人口割合」は島田市の人口統計「年齢別男女別人口調（令和5年12月31日現在）」から算出した割合を使用した。

また、比較対象は、「人口ビジョン」における「基準推計」の令和5年推計値を使用した。この「基準推計」は、国立社会保障・人口問題研究所の『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年3月推計）』※¹（以下、「社人研『平成30年3月推計』」という。）を基にした推計であり、2060（令和42）年の将来人口は62,392人と推計されている。

※1 国勢調査の確定値から推計

※2 島田市住民基本台帳（外国人含む）から算出

(2) 評価方法

令和5年実績値を令和5年推計値と比較し、推計値を上回るか評価した。

2 「施策の目標」及び「重要業績評価指標（KPI）」の評価について

(1) 評価の対象

「施策の目標」及び「重要業績評価指標（KPI）」については、集計時点の社会情勢等に影響される指標があり、最終年度の実績だけでは傾向を捉えられず、総合的な評価をすることが難しい項目があるため、「期間中の実績値の平均」を評価値（評価対象）とした。

なお、実績値が累計であるものについては、最終年度の実績値を評価値とした。

(2) 評価方法

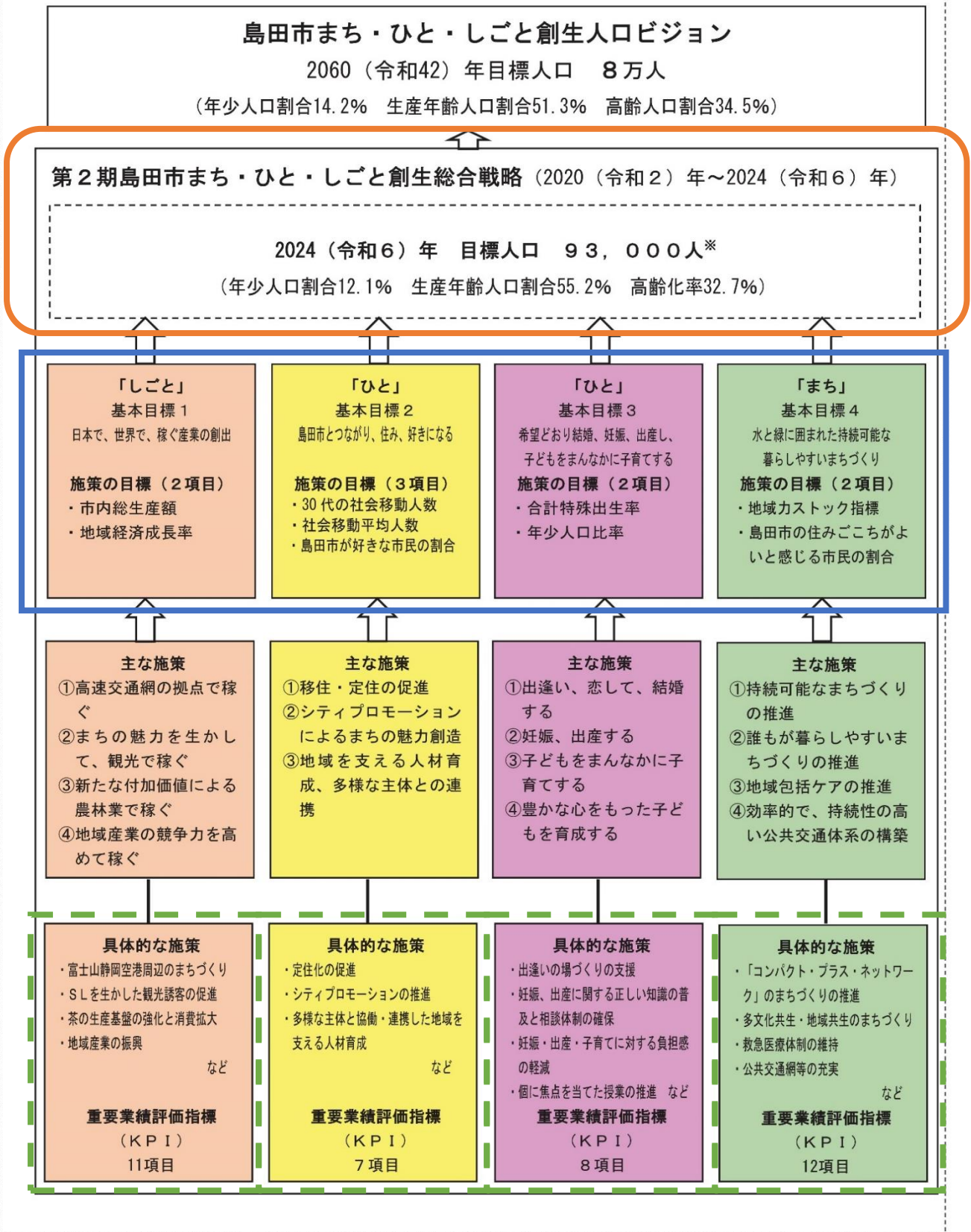
評価値を基準値と比較し、基準値を上回るか評価した。また、目標値に対する達成率によりS・A・B・C・Dの5段階に区分し評価した。

なお、統計調査未実施等により評価書策定時点で評価値又は達成率の算出が困難な項目については、「評価なし」とした。

区分	評価基準
S【100%≦達成率】	目標値を達成しているもの
A【90%≦達成率<100%】	目標値達成が予定より早く見込まれるもの
B【70%≦達成率<90%】	目標値達成が予定どおり見込まれるもの
C【0%≦達成率<70%】	目標値達成に努力が必要なもの
D【達成率<0%】	実績値が基準値未満であり、目標値達成に努力が必要なもの

- ①『人口減少』の克服・適応の評価 ②「施策の目標」の評価
③「重要業績評価指標（KPI）」の評価（基本目標ごと）

第2期総合戦略 施策の目標、重要業績評価指標（KPI）体系図



※ 国勢調査ベースによる推計値

※「第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」より抜粋（P.8）

第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 総合評価・検証結果（行政による自己評価）

□ 『人口減少』克服・適応』の評価（人口推計・年齢3区分別人口割合）

指標とした4項目のうち3項目において、令和5年実績値が令和5年推計値及び令和6年目標値を上回ったことから、第2期総合戦略に掲げた各施策は、『人口減少』克服・適応』について概ね成果を上げることができたと評価する。

推計人口については、自然動態の減少状況の進行により人口減少は進みつつも、社会動態の転入超過傾向により、概ね目標人口を維持している。年齢3区分別人口割合については、特に30代～50代の転入超過が生産年齢人口割合の減少を抑えており、結果として高齢化率の増加を抑えている。年少人口割合については、出生人数の減少により令和5年推計値及び令和6年目標値を下回る結果となったが、10歳未満の転入超過により、年少人口割合の減少をある程度抑えることができた。

10歳未満は10年連続で転入超過、30代は10年間転入超過傾向となっていることから、「子育てしやすいまち」として着実に認識され、子育て支援、教育、移住・定住の施策に一定の効果があったものと評価できる。一方、10代は10年連続で転出超過、20代は10年間転出超過傾向となっており、また、県外、特に首都圏への転出超過傾向が続いており、これは進学や就職に伴う転出超過であると推測する。

こうしたことから、今後も引き続き「子育て世帯に選ばれるまち」として子育て支援、教育、移住・定住施策の充実を図りつつ、一旦県外へ転出してもまた戻ってきたいと思えるよう、教育、シティプロモーション等により地域への愛着醸成に努めていく。

《評価一覧》

指標		※1 R5推計値	R5実績値	推計値との 比較	評価	※2 R6目標値
推計人口		93,362人	※3 93,509人 (R6.1.1現在)	147人	↑	93,000人
年齢3区分別人口割合	年少人口割合	12.2%	※4 11.8% (R5.12.31現在)	△ 0.4%	↓	12.1%
	生産年齢人口割合	54.6%	※4 56.1% (R5.12.31現在)	1.5%	↑	55.2%
	高齢化率 (逆転項目)	33.2%	※4 32.1% (R5.12.31現在)	△ 1.1%	↑	32.7%

※1 社人研『平成30年3月推計』を基にした推計値（外国人含む。2060（令和42）年の将来推計人口は62,392人）

※2 「人口ビジョン」の「2060（令和42）年目標人口 8万人」を目指すための目標値（外国人含む）

※3 「静岡県の推計人口（令和6年1月1日現在）」の島田市の人口総数（推計。外国人含む）

※4 島田市の人口統計「年齢別男女別人口調（令和5年12月31日現在）」から算出（外国人含む）

《計画期間中の推計人口、年齢3区分別人口割合、人口動向》

			単位	2020年 令和 2 年	2021年 令和 3 年	2022年 令和 4 年	2023年 令和 5 年	4 年間 平均	
推計人口※1			人	95, 559	94, 839	94, 307	93, 509	94, 553. 5	
※2 年少人口割合			%	12. 4	12. 3	12. 1	11. 8	12. 2	
年齢 3 区分 別人口割合	生産年齢人口割合		%	56. 3	56. 0	56. 1	56. 1	56. 1	
	高齢化率		%	31. 3	31. 6	31. 8	32. 1	31. 7	
※3 人口動態	自然 動態	出生	人	617	613	553	514	574. 3	
		死亡	人	1, 201	1, 206	1, 320	1, 341	1, 267. 0	
		自然増減	人	△ 584	△ 593	△ 767	△ 827	△ 692. 8	
	社会 動態	転入	人	2, 416	2, 324	2, 752	2, 556	2, 512. 0	
		転出	人	2, 347	2, 434	2, 506	2, 509	2, 449. 0	
		社会増減	人	69	△ 110	246	47	63. 0	
		県内	転入	人	1, 529	1, 411	1, 518	1, 419	1, 469. 3
			転出	人	1, 377	1, 375	1, 365	1, 351	1, 367. 0
			社会増減	人	152	36	153	68	102. 3
		県外	転入	人	887	913	1, 234	1, 137	1, 042. 8
			転出	人	970	1, 059	1, 141	1, 158	1, 082. 0
			社会増減	人	△ 83	△ 146	93	△ 21	△ 39. 3

※1 「静岡県の推計人口」（翌年1月1日現在）の島田市の人口総数（推計。外国人含む）

※2 島田市の人口統計「年齢別男女別人口調」（各年12月31日現在）から算出（外国人含む）

※3 「島田市住民基本台帳」（各年12月31日現在）から抽出（外国人含む）

《計画期間中の年代別社会増減》※4

	単位	2020年 令和2年	2021年 令和3年	2022年 令和4年	2023年 令和5年	4年間 平均
0歳 ～ 9歳	人	110	38	69	38	63.8
10歳 ～ 19歳	人	△ 67	△ 50	△ 34	△ 18	△ 42.3
20歳 ～ 29歳	人	△ 119	△ 115	80	△ 79	△ 58.3
30歳 ～ 39歳	人	74	△ 16	27	9	23.5
40歳 ～ 49歳	人	15	△ 8	50	26	20.8
50歳 ～ 59歳	人	10	24	24	23	20.3
60歳 ～ 69歳	人	32	7	26	25	22.5
70歳 ～ 79歳	人	12	9	5	20	11.5
80歳 ～ 89歳	人	△ 5	△ 1	△ 4	1	△ 2.3
90歳 ～	人	7	2	3	2	3.5
合計	人	69	△ 110	246	47	63.0

※4 「島田市住民基本台帳」（各年12月31日現在）から抽出（外国人含む）

□ 「施策の目標」の基準値及び目標値に対する評価（全9項目）

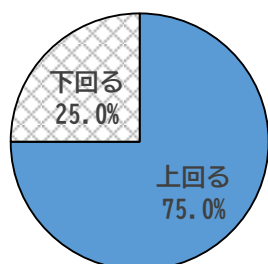
評価可能な8項目のうち、6項目（75.0%）の指標で基準値を上回り、基準の平成30年度から好転している。また、5項目（62.5%）の指標においては目標値を上回る達成率となった。これらのことから、第2期総合戦略に掲げた各施策は、各施策の目標についても概ね成果を上げることができたと評価する。

基本目標1「日本で、世界で、稼ぐ産業の創出」については、2項目とも目標値を上回った。しかし、これらの指標は2年前の実績による評価であり、令和5年度評価（令和3年度実績）は評価待ちであることから、コロナ禍前の実績が大きく反映されたものである。このため、今後の評価を注視していく必要がある。

基本目標2「島田市とつながり、住み、好きになる」については、全3項目で基準値を上回り、うち2項目は目標値を上回っている。今後も移住・定住の促進、シティプロモーションによるまち魅力創造による転入超過の継続、地域への愛着醸成を図っていく。

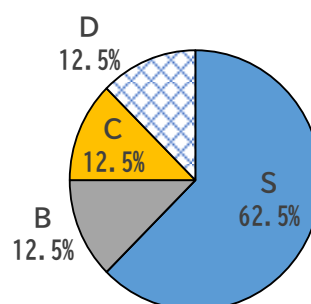
《基準値に対する評価》

上回る	6項目（75.0%）
変動なし	0項目（0.0%）
下回る	2項目（25.0%）



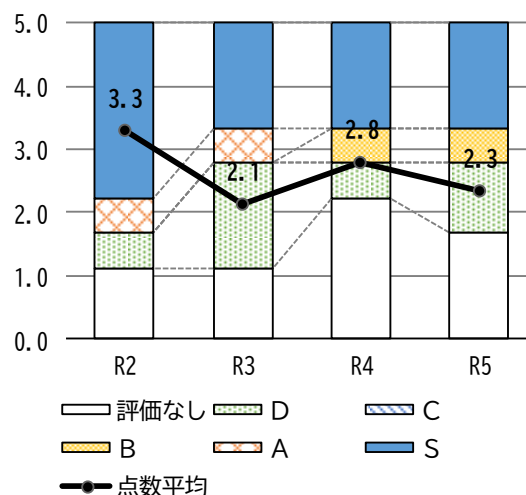
《目標値に対する評価》

S評価	5項目（62.5%）
A評価	0項目（0.0%）
B評価	1項目（12.5%）
C評価	1項目（12.5%）
D評価	1項目（12.5%）



《評価の推移》

評価	点数	項目数			
		R2	R3	R4	R5
S	4	5	3	3	3
A	3	1	1	0	0
B	2	0	0	1	1
C	1	0	0	0	0
D	0	1	3	1	2
評価なし		2	2	4	3
評価あり		7	7	5	6
点数合計		23	15	14	14
点数平均		3.3	2.1	2.8	2.3



基本目標3「希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんやかに子育てする」については、2項目とも基準値を下回ったが、「合計特殊出生率」については、全国値の1.33及び静岡県値の1.39を上回っていること、「年少人口比率」については、10歳未満は10年連続で転入超過、30代は10年間転入超過傾向にあることから、一定の成果はあったと評価できる。将来目標人口8万人を達成するための重要な要因であるため、今後も注視するとともに、子育て支援のさらなる充実を図っていく必要がある。

目標4「水と緑に囲まれた持続可能な暮らしやすいまちづくり」については、評価可能な1項目「島田市の住みごこちがよいと感じる市民の割合」が目標値を上回った。デジ田総合戦略では「評価なし」の項目「地域カストック指標」に代わり新しい指標「平均自立期間」により評価をしていく。

《評価一覧表》

基本目標	施策の目標	基準値 H30	目標値 R6	評価値 (期間中平均)	基準値との 比較	評価	達成率 評価
基本目標1 日本で、世界で、稼 ぐ産業の創出	市内総生産額 (年間)	3,674億円 (H28)	3,681億円 (R4)	※ 3,793億円	119億円	↑	S
	地域経済成長率	△ 4.1% (H28)	前年度数値 を上回る	※ △ 0.2%	3.9%	↑	S
基本目標2 島田市に住み、好き になる	計画期間中の30代の 社会移動人数 (暦年)	51.2人 (H26～H30平均)	100人 (R2～R6累計)	94人	42.8人	↑	B
	計画期間中の社会移 動平均人数 (暦年)	△ 59.8人 (H26～H30平均)	転入超過 (R2～R6平均)	63.0人	122.8人	↑	S
	島田市が好きな市民 の割合	67.8% (H26～H30平均)	基準値を 上回る (R2～R6平均)	73.5%	5.7%	↑	S
基本目標3 希望どおり結婚、妊 娠、出産し、子ども をまんやかに子育て する	合計特殊出生率	1.51	1.60	1.41	-0.1	↓	D
	年少人口比率 (市算出)	12.6%	12.1%	12.2%	△ 0.5%	↓	* C
基本目標4 水と緑に囲まれた健 康長寿の暮らしやす いまちづくり	地域カストック指標	2.46	2.50	—	—	—	—
	島田市の住みごこち がよいと感じる市民 の割合	84.2% (H26～H30平均)	基準値を 上回る (R2～R6平均)	86.7%	2.5%	↑	S

※新型コロナウイルス感染症による影響あり、*抑制率評価

□「重要業績評価指標（KPI）」の基準値及び目標値に対する評価

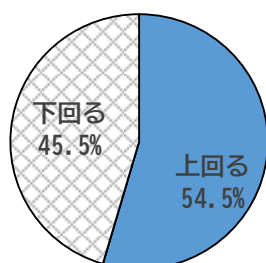
●基本目標1 日本で、世界で、稼ぐ産業の創出（全11項目）

《主な成果》

- ・「新規企業立地件数」は、コロナ禍においても、企業誘致活動に加え、工業用地開発を進め、整備が完了した区画ごと随時募集を行い、企業立地を推進してきたことで、着実に増やすことができた。
- ・「観光交流客数」は、コロナ禍により大きく落ち込んだが、イベント開催、ツアー造成事業、プロモーション等により、コロナ禍前の基準値を上回る状況まで回復した。
- ・「実質化された人・農地プラン」を令和3年度中に全域策定完了したことから、『「実質化された人・農地プラン」に位置付けられた担い手の数』は目標値を上回った。
- ・「新規創業者数」については、産業支援センターにおける起業希望者からの相談、セミナー受講や事業計画の作成への誘導、補助金交付までの一連の流れにより、目標値の100人を大幅に超えることができた。また、創業者が増えたことが、「中心市街地の新規雇用者数の増加」に繋がった。

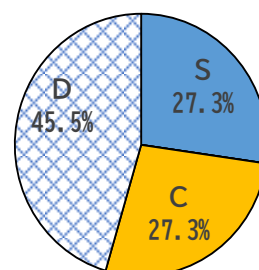
《基準値に対する評価》

上回る	6項目（54.5%）
変動なし	0項目（0.0%）
下回る	5項目（45.5%）



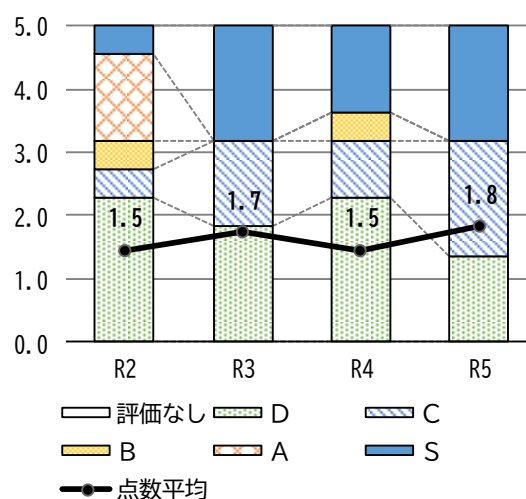
《目標値に対する評価》

S評価	3項目（27.3%）
A評価	0項目（0.0%）
B評価	0項目（0.0%）
C評価	3項目（27.3%）
D評価	5項目（45.5%）



《評価の推移》

評価	点数	項目数			
		R2	R3	R4	R5
S	4	1	4	3	4
A	3	3	0	0	0
B	2	1	0	1	0
C	1	1	3	2	4
D	0	5	4	5	3
評価なし		0	0	0	0
評価あり		11	11	11	11
点数合計		16	19	16	20
点数平均		1.5	1.7	1.5	1.8



《評価一覧表》

主な施策	重要業績評価指標 (K P I)	基準値 H30	目標値 R6	評価値 (期間中平均)	基準値との 比 較	評価	達成率 評価
1ーア 高速交通網の 拠点で稼ぐ	新規企業立地件数 (H27～累計)	9件	24件	※ 15件 (累計)	6件	↑	C
1ーイ まちの魅力を 生かして、観 光で稼ぐ	観光交流客数 (年間)	189.7万人	300.0万人	※ 215.6万人	25.9万人	↑	C
	宿泊者数(年間)	227,503人	240,000人	※ 205,376人	△ 22,128人	↓	D
	観光消費単価 (一人当たり)	6,141円	6,600円	※ 5,587円	△ 554円	↓	D
1ーウ 新たな付加価 値による農林 業で稼ぐ	「実質化された人・農地 プラン」に位置付けられ た担い手の数(年度末現 在)	0件	240件	276件	276件	↑	S
	認定農業者への農地集積 率(累計)	37.5%	44.0%	37.9% (累計)	0.4%	↑	C
	認定農業者数 (年度末現在)	384人	384人	363人	△ 21人	↓	D
	森林整備面積 (年間)	205.2ha	320.0ha	※ 201.7ha	△ 3.5ha	↓	D
1ーエ 地域産業の競 争力を高めて 稼ぐ	新規創業者数 (累計)	48人	100人	159人 (累計)	111人	↑	S
	中心市街地の1日当たり 通行量(調査実施日現 在)	7,792人	8,000人	※ 6,296人	△ 1,496人	↓	D
	中心市街地の新規雇用者 数の増加(開業・新規雇 用者数)	78人 (H26～H30累計)	140人 (R2～R6累計)	246人 (累計)	168人	↑	S
※新型コロナウイルス感染症による影響あり							

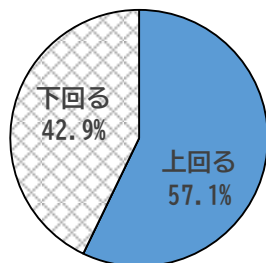
●基本目標2 島田市とつながり、住み、好きになる（全7項目）

《主な成果》

- ・「移住ポータルサイトの閲覧時間」については、見やすく分かりやすいサイトにリニューアルし、サイト訪問者数を分析しサイト内記事の内容やコンテンツの拡充を行ったことで、ページビュー数が上がり、閲覧時間も向上した。また、移住相談イベントやセミナーの実施、相談対応等により、「移住・定住相談窓口を利用した市外からの移住人数」着実に増やすことができた。
- ・令和2年度に島田市LINE公式アカウントを開設し、メッセージ配信から市公式ホームページへ積極的に誘導するようにしたことで、「市公式ホームページの総ビュー数」が上昇した。
- ・「包括連携協定による高校生主体の連携事業数」は、学習指導要領の改訂により「総合的な探究の時間」設けられ、高校から地域や地元企業とのつながりを求める声が多く挙がるようになり、これに対応してきたことで目標値を大幅に上回った。

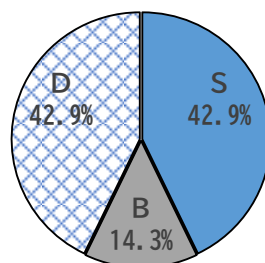
《基準値に対する評価》

上回る	4項目（57.1%）
変動なし	0項目（0.0%）
下回る	3項目（42.9%）



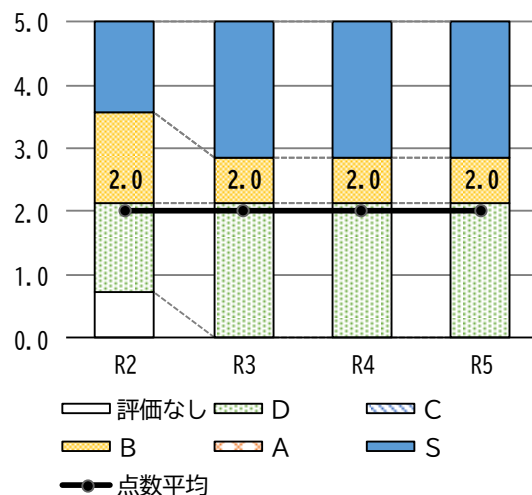
《目標値に対する評価》

S評価	3項目（42.9%）
A評価	0項目（0.0%）
B評価	1項目（14.3%）
C評価	0項目（0.0%）
D評価	3項目（42.9%）



《評価の推移》

評価	点数	項目数			
		R2	R3	R4	R5
S	4	2	3	3	3
A	3	0	0	0	0
B	2	2	1	1	1
C	1	0	0	0	0
D	0	2	3	3	3
評価なし		1	0	0	0
評価あり		6	7	7	7
点数合計		12	14	14	14
点数平均		2.0	2.0	2.0	2.0



《評価一覧表》

主な施策	重要業績評価指標 (K P I)	基準値 H30	目標値 R6	評価値 (期間中平均)	基準値との 比 較	評価	達成率 評価
２－ア 移住・定住の 促進	移住・定住相談窓口を利用した県外からの移住件数（累計）	(参考) 171人 0人 H27～R1累計	250人 (R2～R6累積)	217人 (累計)	217人	↑	B
	移住ポータルサイトの閲覧時間（１日平均）	74分	90分	156分	82分	↑	S
２－イ シティプロ モーションに よるまちの魅 力創造	都市の魅力度（地域ブランド調査） (逆転項目)	405位	355位	542位	137位	↓	D
	市公式ホームページの総ビュー数 (年間)	313万件	350万件	※ 632万件	319万件	↑	S
	島田市緑茶化計画の取組について知っていると答えた市民の割合	29.4% (R2実績値)	40.0%	17.1%	△ 12.3%	↓	D
２－ウ 地域を支える 人材育成、多 様な主体との 連携	包括連携協定による高校生との連携事業数 (累計)	2件	10件	30件 (累計)	28件	↑	S
	「しずおか中部連携中枢都市圏ビジョン」のうち、島田市事業分 K P I 達成度	65.4%	100.0%	※ 40.5%	△ 24.9%	↓	D
※新型コロナウイルス感染症による影響あり							

●基本目標3 希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんなかに子育てする

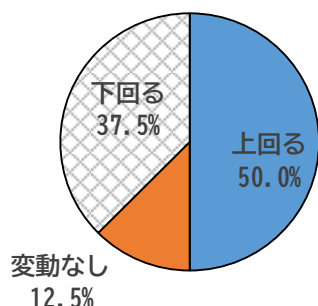
(全8項目)

《主な成果》

- ・「結婚支援ネットワーク加入団体の支援により成婚した組数」については、参加者のニーズに沿ったイベントの開催に加え、その後の相談、支援等を行ったことで、目標値を大幅に上回ることができた。
- ・「赤ちゃん訪問の訪問率」については、4年間続けて100%を実現することで、子育ての孤立化を防ぎ、支援が必要な家庭を適切なサービスに結び付けることができた。
- ・「担当保健師がいることを知っている保護者の割合」については、「島田市版ネウボラ」の取組、「しまいく+（ぷらす）」の活用により目標値を大きく上回ることができた。
- ・「自分にはよいところがあると答えた児童・生徒の割合」については、コロナ禍により社会が不安定な中においても、各校がスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携し、個に寄り添ったきめ細やかな指導、支援を継続してきたことで、高い割合を維持することができた。

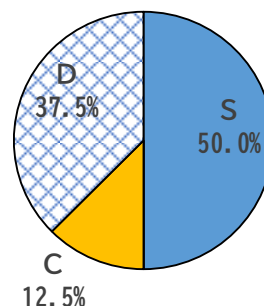
《基準値に対する評価》

上回る	4項目 (50.0%)
変動なし	1項目 (12.5%)
下回る	3項目 (37.5%)



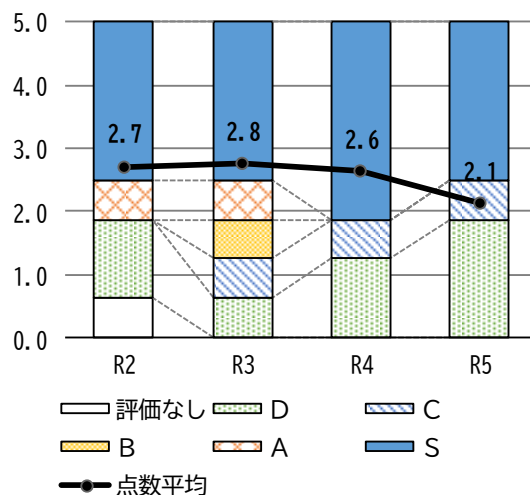
《目標値に対する評価》

S評価	4項目 (50.0%)
A評価	0項目 (0.0%)
B評価	0項目 (0.0%)
C評価	1項目 (12.5%)
D評価	3項目 (37.5%)



《評価の推移》

評価	点数	項目数			
		R2	R3	R4	R5
S	4	4	4	5	4
A	3	1	1	0	0
B	2	0	1	0	0
C	1	0	1	1	1
D	0	2	1	2	3
評価なし		1	0	0	0
評価あり		7	8	8	8
点数合計		19	22	21	17
点数平均		2.7	2.8	2.6	2.1



《評価一覧表》

主な施策	重要業績評価指標 (K P I)	基準値 H30	目標値 R6	評価値 (期間中平均)	基準値との 比 較	評価	達成率 評価
３－ア 出逢い、恋し て、結婚する	結婚支援ネットワーク加 入団体の支援により成婚 した組数（累計）	0組	15組 (R2～R6累積)	※ 28組 (累計)	28組	↑	S
３－イ 妊娠、出産す る	赤ちゃん訪問（乳児家庭 全戸訪問）の訪問率 （年間）	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	→	S
３－ウ 子どもをまん なかに子育て する	担当保健師がいることを 知っている保護者の割合 (R2実績値)	74.0%	80.0%	89.5%	15.5%	↑	S
	保育所等の利用申込者数に 対する待機児童数の割合 （翌年４月１日現在） （逆転項目）	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	↓	D
	放課後児童クラブの利用申込者 数に対する待機児童数の割合 （翌年４月１日現在） （逆転項目）	8.8%	0.0%	6.5%	△ 2.3%	↑	C
	職場で男女が平等である と思う市民の割合	23.2%	30.0%	21.8%	△ 1.4%	↓	D
３－エ 豊かな心をも った子ども を育成する	自分にはよいところがあ ると答えた児童の割合	84.9%	基準値を 上回る	81.5%	△ 3.4%	↓	D
	自分にはよいところがある と答えた生徒の割合	70.3%	基準値を 上回る	73.3%	3.0%	↑	S
※新型コロナウイルス感染症による影響あり							

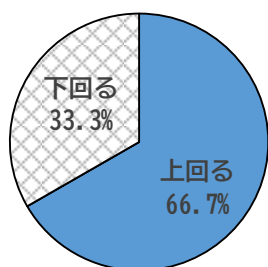
●基本目標4 水と緑に囲まれた持続可能な暮らしやすいまちづくり（全12項目）

《主な成果》

- ・「お達者度」については、高齢者の生きがい活動の場の増加、特定検診、後期高齢者検診の受診率の増加と健診結果を基とした保険事業の実施、パワーリハビリ教室等講座の実施等により、男性、女性とも基準値を上回った。
- ・「在宅看取りの率」については、24時間対応可能な訪問看護体制に加え、地域の医療・介護資源が増えたこと、医療材料提供体制の整備、医療・介護関係者間の連携強化の取組等により、目標値を上回ることができた。
- ・「地域公共交通利用者数」及び「地域公共交通運行平均収支率」については、コロナ禍により大きく減少し、コロナ禍前の水準まで回復できない状態が続いているが、利用者アンケートや主要施設への聞き取り等による意見収集を行い、ダイヤ改正やバス停追加等の利便性向上により、徐々に増加してきている。

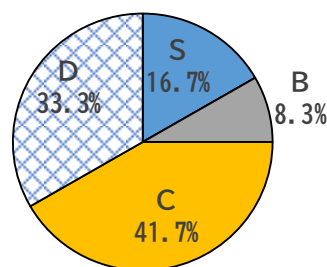
《基準値に対する評価》

上回る	8項目（66.7%）
変動なし	0項目（0.0%）
下回る	4項目（33.3%）



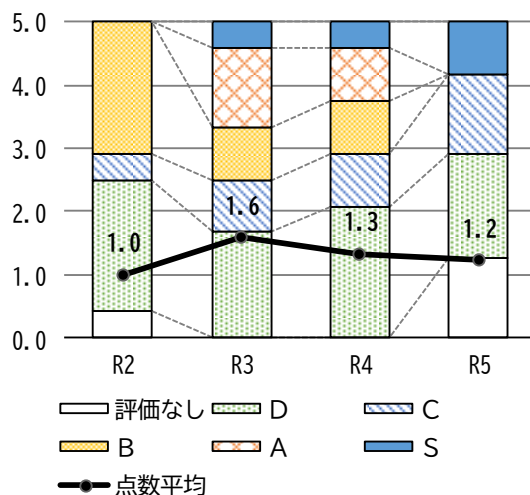
《目標値に対する評価》

S評価	2項目（16.7%）
A評価	0項目（0.0%）
B評価	1項目（8.3%）
C評価	5項目（41.7%）
D評価	4項目（33.3%）



《評価の推移》

評価	点数	項目数			
		R2	R3	R4	R5
S	4	0	1	1	2
A	3	0	3	2	0
B	2	5	2	2	0
C	1	1	2	2	3
D	0	5	4	5	4
評価なし		1	0	0	3
評価あり		11	12	12	9
点数合計		11	19	16	11
点数平均		1.0	1.6	1.3	1.2



《評価一覧表》

主な施策	重要業績評価指標 (K P I)	基準値 H30	目標値 R6	評価値 (期間中平均)	基準値との 比較	評価	達成率 評価
4ーア 持続可能なまちづくりの推進	コンパクト・プラス・ネットワークの推進が重要だと思う市民の割合	54.2% (R2実績値)	70.0%	51.8%	△ 2.4%	↓	D
	中心市街地の居住人口の増加 (居住人口増)	△ 69人	40人	△ 47人	23人	↑	C
4ーイ 誰もが暮らしやすいまちづくりの推進	お達者度（男性） (県において算出)	18.50年 (H28)	19.18年 (R4)	18.61年	0.11年	↑	C
	お達者度（女性） (県において算出)	21.60年 (H28)	22.53年 (R4)	21.85年	0.25年	↑	C
	健幸マイレージに取り組んだ人数 (年間)	1,300人	1,700人	※ 936人	△ 364人	↓	D
4ーウ 地域包括ケアの推進	しまトレ実施箇所数（年度毎累計）	59か所	135か所	※ 94か所	35か所	↑	C
	居場所づくり事業実施箇所数 (年度毎累計)	63か所	95か所	※ 71か所	8か所	↑	C
	地域高齢者見守りネットワークづくりの協力事業所数（年度毎累計）	133事業所	200事業所	193事業所	60事業所	↑	B
	在宅看取りの率 (在宅死亡者の率) (年間)	37.1%	38.0%	40.8%	3.7%	↑	S
4ーエ 効率的で、持続性の高い公共交通の構築	地域公共交通利用者数 (年間)	251,472人	260,000人	※ 174,144人	△ 77,328人	↓	D
	新たな手段による公共交通の運行を開始した地区の数（年度末現在）	0地区	8地区	8地区 (累計)	8地区	↑	S
	地域公共交通運行平均収支率 (年度末現在)	16.2%	20.0%	※ 10.1%	△ 6.2%	↓	D
※新型コロナウイルス感染症による影響あり							

第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 総合評価・検証結果（外部評価）

1 外部評価・検証結果について

第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の着実な推進を図るため、「『人口減少』の克服・適応」については、「推計人口」及び「年齢3区分別人口割合」により、総合戦略に掲げた事業の取組状況については、「施策の目標」及び「重要業績評価指標（KPI）」により外部評価・検証を行った。

（1）外部評価・検証の実施日

令和6年8月6日（火） 島田市デジタル田園都市構想市民会議

令和6年8月19日（月） 島田市デジタル田園都市構想金融機関会議

（2）評価・検証結果

人口に係る4項目のうち3項目において、令和5年度推計値及び令和6年度目標値を上回ったこと、また、「施策の目標」の評価可能な8項目のうち、6項目において基準値を上回り、5項目において目標値を上回る達成率となったことから、各施策は概ね成果を上げ、総合戦略の目標に向けて着実に推進していると評価する。

2 外部評価・検証における主な意見

会 議 名	意 見
島田市デジタル田園都市構想市民会議	市内高校の生徒やOBの活躍をアピールすることも、人口減少対策の一つにできるのではないかな。
	高校生などの若者が進学などで市外に一度出ても、島田市に戻り、子育てなどをしたいと思えるように、もっと地域の繋がりを高め、あたたかく、にぎやかで豊かな島田市になってほしい。
	単年度に加えて計画期間中の総合評価もしており、このようなPDCAサイクルの徹底が、施策の改善から人口減少対策の深化に、という好循環に繋がっていると感じた。
島田市デジタル田園都市構想金融機関会議	人口減少対策は、付き合い、結婚することがベースになるため、出会いの場をつくることは重要であり、良い施策である。
	人口減少対策として、働く場所や住む場所を増やすとともに、子育て環境など、長く働くための施策・仕組みづくりが必要である。
	人口減少の中、外国人比率が上がっていることから、今後、外国人を受け入れていくことは重要な施策の一つになる。

3 外部評価・検証結果を踏まえた今後の対応

外部評価・検証の中で出された意見や指摘事項を庁内で共有し、島田市デジタル田園都市構想総合戦略における各施策の取組を推進、展開していく。

【資料】

**第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
進捗管理表**

島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価区分について

1 評価・検証について

各年度の実績値等に基づく総合戦略に掲げる施策の目標の推移や、具体的な施策ごとの重要業績評価指標（K P I）の達成状況、期間中の取組や達成率に対する今後の要因等を取りまとめたものである。

2 評価方法について

期間中の実績値の平均値を評価値とし、評価値の目標値への達成度を考慮し、以下により評価を行っている。

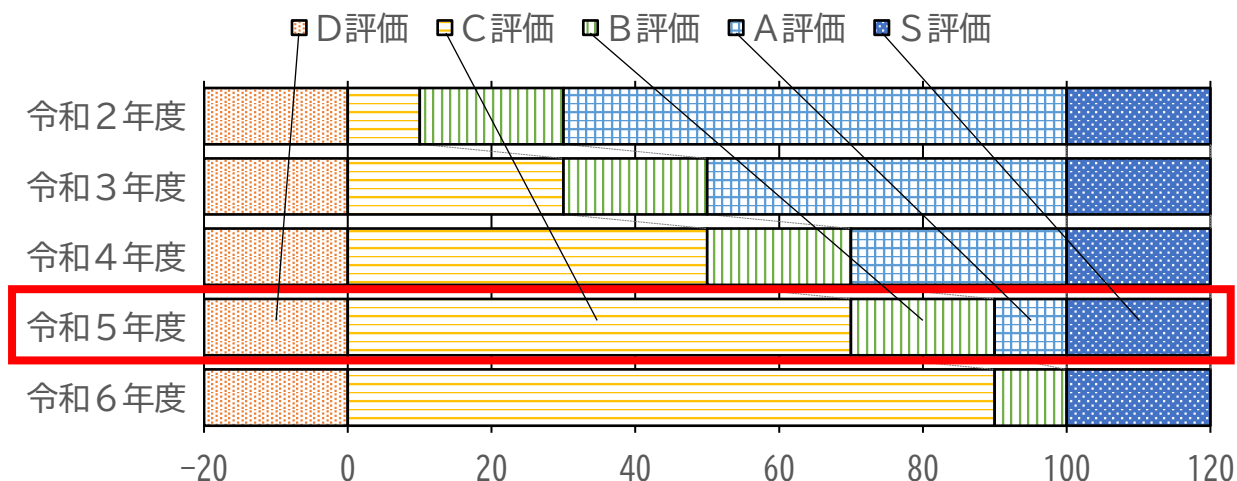
総合戦略に掲げられている基本目標ごとの目標値（9項目）及び具体的な施策ごとの重要業績評価指標（K P I）（38項目）について、評価値から達成率を算出し、S・A・B・C・Dの5段階で評価を行った。

統計調査未実施等により、評価書策定時点で達成率算出が困難な項目は「評価なし」とした。

《評価区分》

区分	評価基準
S 【100%≦達成率】	目標値を達成しているもの
A 【90%≦達成率<100%】	目標値達成が予定より早く見込まれるもの
B 【70%≦達成率<90%】	目標値達成が予定どおり見込まれるもの
C 【0%≦達成率<70%】	目標値達成に努力が必要なもの
D 【達成率<0%】	実績値が基準値未満であり、目標値達成に努力が必要なもの
評価なし	実績値公表待ち、当該年度調査なし等により達成率の算出ができないもの

3 年度別評価と達成率の関係



S評価	100%以上
A評価	S評価からB評価の間
B評価	令和2年度 理想値※（20%）±10%の範囲
	令和3年度 理想値（40%）±10%の範囲
	令和4年度 理想値（60%）±10%の範囲
	<u>令和5年度 理想値（80%）±10%の範囲</u>
	令和6年度 理想値（100%）－10%の範囲
C評価	B評価からD評価の間
D評価	0%未満

※理想値：各年度において目標とする値

第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策の目標及び重要業績評価指標（KPI）達成状況及び評価について

1 総合戦略の進捗状況による評価

(1) 「施策の目標」の評価

施策の目標【9項目】	S	A	B	C	D	評価なし	備考
	5	0	1	1	1	1	
日本で、世界で、稼ぐ産業の創出	2	0	0	0	0	0	
・ 市内総生産額 〓(年間)	●						2年前の実績に基づく評価が10月頃公表(県)のため、R5は評価待ち 新型コロナの影響あり
・ 地域経済成長率	●						
島田市とつながり、住み、好きになる	2	0	1	0	0	0	
・ 計画期間中の30代の社会移動人数 〓(暦年)			●				
・ 計画期間中の社会移動平均人数 〓(暦年)	●						
・ 島田市が好きな市民の割合	●						
希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんやかに子育てする	0	0	0	1	1	0	
・ 合計特殊出生率					●		
・ 年少人口比率 〓(市算出)				●			
水と緑に囲まれた持続可能な暮らしやすいまちづくり	1	0	0	0	0	1	
・ 地域力ストック指標						●	R2～R5公表なし
・ 島田市の住みごこちがよいと感じる市民の割合	●						

【評価】

- ・ 評価を行った8項目のうち、5項目は目標値以上のS評価となった。
- ・ 一方、D評価となった「合計特殊出生率」は、将来目標人口8万人を達成するための重要な要因であるため、今後も注視する必要がある。

(2) 「重要業績評価指標（KPI）」の評価

重要業績評価指標（KPI） 【38項目】	S	A	B	C	D	評価なし	備考
	12	0	2	9	15	0	
日本で、世界で、稼ぐ産業の創出	3	0	0	3	5	0	
・ 新規企業立地件数 〓(H27～累計)				●			新型コロナ影響あり
・ 観光交流客数 〓(年間)				●			新型コロナ影響あり
・ 宿泊者数 (年間)					●		新型コロナ影響あり
・ 観光消費単価 〓(一人当たり)					●		新型コロナ影響あり
・ 「実質化された人・農地プラン」に位置付けられた担い手の数 (年度末現在)	●						
・ 認定農業者への農地集積率 (累計)				●			
・ 認定農業者数 〓(年度末現在)					●		
・ 森林整備面積 〓(年間)					●		新型コロナ影響あり
・ 新規創業者数 〓(累計)	●						
・ 中心市街地の1日当たり通行量 〓(調査実施日現在)					●		新型コロナ影響あり

・ 中心市街地の新規雇用者数の増加（開業・新規雇用者数）	●						
島田市とつながり、住み、好きになる	3	0	1	0	3	0	
・ 移住・定住相談窓口を利用した県外からの移住件数（累計）			●				
・ 移住ポータルサイトの閲覧時間 〃（1日平均）	●						
・ 都市の魅力度（地域ブランド調査）					●		
・ 市公式ホームページの総ビュー数 〃（年間）	●						新型コロナ影響あり
・ 島田市緑茶化計画の取組について知っていると感じた市民の割合					●		
・ 包括連携協定による高校生との連携事業数（累計）	●						
・ 「しずおか中部連携中枢都市圏ビジョン」のうち、島田市事業分KPI達成度					●		新型コロナ影響あり
希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんなかに子育てする	4	0	0	1	3	0	
・ 結婚支援ネットワーク加入団体の支援により成婚した組数（累計）	●						
・ 赤ちゃん訪問（乳児家庭全戸訪問）の訪問率（年間）	●						
・ 担当保健師がいることを知っている保護者の割合	●						
・ 保育所等の利用申込者数に対する待機児童数の割合（翌年4月1日現在）（逆転項目）					●		
・ 放課後児童クラブの利用申込者数に対する待機児童数の割合（翌年4月1日現在）（逆転項目）				●			
・ 職場で男女が平等であると思う市民の割合					●		
・ 自分にはよいところがあると答えた児童の割合					●		
・ 自分にはよいところがあると答えた生徒の割合	●						
水と緑に囲まれた持続可能な暮らしやすいまちづくり	2	0	1	5	4	0	
・ コンパクト・プラス・ネットワークの推進が重要だと思う市民の割合					●		
・ 中心市街地の居住人口の増加 〃（居住人口増）				●			
・ お達者度（男性） 〃（県において算出）				●			R4評価終了（県）
・ お達者度（女性） 〃（県において算出）				●			
・ 健幸マイレージに取り組んだ人数 〃（年間）					●		新型コロナ影響あり
・ しまトレ実施箇所数（年度毎累計）				●			新型コロナ影響あり
・ 居場所づくり事業実施箇所数 〃（年度毎累計）				●			新型コロナ影響あり
・ 地域高齢者見守りネットワークづくりの協力事業所数 〃（年度毎累計）			●				
・ 在宅看取りの率（在宅死亡者の率） 〃（年間）	●						R5評価待ち（県）
・ 地域公共交通利用者数（年間）					●		新型コロナ影響あり
・ 新たな手段による公共交通の運行を開始した地区の数 〃（年度末現在）	●						
・ 地域公共交通運行平均収支率 〃（年度末現在）					●		新型コロナ影響あり

【評価】

- ・ KPI 全38項目中、S評価からB評価までの合計は、14項目（36.8%）を占めている。また、成果が出始めているC評価まで含めると、23項目（60.5%）となり、各施策、取組の成果が着実に現れていると考えられる。
- ・ 一方、基準値を下回るD評価は15項目（39.5%）となったが、新型コロナウイルス感染症の影響があったものが多い。

【基本目標１】 日本で、世界で、稼ぐ産業の創出

施策の目標	基準値 (H30)	目標値 (R6)	期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
				理想値 <20%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価
市内総生産額（年間） （出典：しずおかけんの地域経済計算）	3, 674. 04億円 H28	3, 680. 95億円 R4		3, 675. 42億円	3, 808. 23億円 <目標値以上>	S	3, 676. 80億円	3, 951. 73億円 <目標値以上>	S
地域経済成長率 （出典：しずおかけんの地域経済計算）	▲4. 1%	前年度 数値を 上回る		前年度 数値を 上回る	3. 9% <目標値以上>	S	前年度 数値を 上回る	3. 8% <98. 8%>	A

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）		期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末			
	基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40＞	実績値 ＜達成率＞	評価	
（ア）高速交通網の拠点で稼ぐ										
・富士山静岡空港周辺のまちづくり ・新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺のまちづくり ・地域資源を生かした企業誘致 ・交通結節点を生かすための周辺基盤整備	新規企業立地件数 (H27～累計)	9件	24件		12件	10件 ＜6. 7＞	C	15件	11件 ＜13. 3＞	C

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)			理想値 ＜20％＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40％＞	実績値 ＜達成率＞	評価
（イ）まちの魅力を生かして、観光で稼ぐ										
・ S Lを生かした観光誘客の促進 ・ 川根温泉及び田代の郷温泉を核とした観光の推進 ・ ニューツーリズムや歴史・文化資源を活用した新たな観光の推進 ・ 観光資源の有効活用とロケーション活動支援の充実 ・ 富士山静岡空港の海外渡航先からの外国人観光客の誘致 ・ デジタルマーケティング手法を活用した観光戦略プランの推進及び広域観光連携の充実・強化	観光交流客数 （年間）	1, 896, 746人	3, 000, 000人		2, 117, 397人	1, 510, 933人 ＜基準値以下＞	D	2, 338, 048人	1, 901, 389人 ＜0. 4％＞	C
	宿泊者数（年間）	227, 503人	240, 000人		230, 002人	165, 454人 ＜基準値以下＞	D	232, 502人	182, 900人 ＜基準値以下＞	D
	観光消費単価 （一人当たり）	6, 141円	6, 600円		6, 233円	5, 812円 ＜基準値以下＞ R1	D	6, 325円	7, 195円 ＜目標値以上＞ R2	S

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）		期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末			
	基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20％＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40％＞	実績値 ＜達成率＞	評価	
（ウ）新たな付加価値による農林業で稼ぐ										
・茶の生産基盤の強化と消費拡大 ・6次産業化とブランド化の推進 ・地域農業の振興と地産地消の推進 ・多様な担い手の確保・育成 ・生産性の高い林業の実現	「実質化された人・農地プラン」に位置付けられた担い手の数 （累計）	0件	240件		48件	37件 ＜15. 4％＞	B	96件	365件 ＜目標値以上＞	S
	認定農業者への農地集積率 （累計）	37. 5%	44. 0%		38. 8%	38. 9% ＜21. 5％＞	B	40. 1%	38. 6% ＜16. 9％＞	C
	認定農業者数 （年度末現在）	384人	384人		384人	387人 ＜目標値以上＞	S	384人	371人 ＜基準値以下＞	D
	森林整備面積 （年間）	205. 2ha	320. 0ha		228. 2ha	202. 7ha ＜基準値以下＞	D	251. 1ha	191. 9ha ＜基準値以下＞	D

R4年度末			R5年度末			基本目標の評価	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価		
3,678.19億円	3,619.58億円 <基準値以下>	D	3,679.57億円	未公表	—	戦略 推進課	
前年度 数値を 上回る	▲8.1% <基準値以下>	D	前年度 数値を 上回る	未公表	—		

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			
18件	11件 <13.3%>	C	21件	15件 <40.0%>	C	地域特性・補助制度のPRによる企業誘致活動に加え、新東名島田金谷IC周辺では土地開発公社を活用した工業用地開発を進め、整備が完了した区画ごと随時募集を行い企業立地を推進してきた。 全体的な傾向として、新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢等により立地の見直しやスケジュールの遅延が見られ、達成率に影響を及ぼすこととなっている。	市内企業の定着と市内への新たな設備投資の情報収集のため、各関係課と連携し市内企業や市外の本社訪問を実施するとともに、県と連携した企業訪問も継続する。申請を先送りした企業との連絡も密にし、企業の要望などに可能な限り対応して立地に繋げられるよう努める。新東名島田金谷IC周辺では、今後も土地開発公社を活用した工業用地開発を進め、企業立地に繋げていく。	内陸 フロン ティア 推進課

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			
2,558,698人	2,554,345人 <59.6%>	B	2,779,349人	2,657,363人 <68.9%>	C	令和2年度以降コロナ禍の影響により、観光交流客は当初想定していた推移を下回る状況が続いていたが、コロナが5類に引き下げた以降は観光客も回復傾向にある。	国内ではインバウンド需要が高まりをみせており、今後は、インバウンドの誘客を図ることが目標を達成するために重要となる。 このため、昨年度達成したツアー等をきっかけに、海外の旅行代理店等に接触する機会を増やし、訪日時における立寄り先として認知を広げるとともに、インバウンドの誘客へと繋げる。 特に親日家で日本への訪問回数が複数あり、未だ訪れたことの無い地を旅したがる台湾人をメインターゲットとし、島田市観光協会と連携したプロモーション活動を令和6年度実施する。	観光課
235,001人	215,033人 <基準値以下>	D	237,501人	258,115人 <目標値以上>	S	令和2年度以降コロナ禍の影響により、宿泊者数は当初想定していた推移を大きく下回り、令和2年度は165,454人まで減少した。しかしコロナが5類に引き下げられ、令和5年度は258,115人まで回復し目標を達成している。	課題であった宿泊施設については、農家民宿の増加により徐々に宿泊定員数は増加を続けている。 今後も農家民宿の開設を支援することにより、宿泊定員数の増加を図り宿泊者数の増加を引き続き目指す。	
6,416円	5,633円 <基準値以下>	D	6,508円	5,553円 <基準値以下>	D	令和5年度の観光消費単価は5,553円であった。これは、コロナが収束し徐々に観光客は増加しているが観光客の内訳は日帰り観光客が約85%、宿泊観光客が15%であった。消費単価が低い日帰り観光客の割合が大きいため、単価推計プロセスにおいて加重平均すると観光消費単価の低下を招いている。なお、観光消費額全体と比較すると、基準年の11,647百万円に対し2,537百万円増の14,184百万円(121.8%)となっている。	今後も誘客に向けたプロモーションを実践することにより、観光交流客数の増加を目指す。 また、消費単価が高い宿泊者については、インバウンド誘客を推進することにより、消費単価の増加を図る。	

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			
144件	353件 <目標値以上>	S	192件	348件 <目標値以上>	S	当初は人・農地プランの作成について、話し合いできる地区を探しながら徐々に作成していく方針であったが、国・県の強い要望があったため令和3年度中に全域策定完了した。	担い手は高齢化してきており、徐々に減少していくことが予想されるため、法人や新規就農者の確保育成を図っていく。	農業 振興課
41.4%	38.6% <16.9%>	C	42.7%	37.9% <6.1%>	C	農地の集積について地域での話し合いは進んでおらず、それぞれの担い手が耕作する面積を徐々に増やしている状態である。	令和3年度に市内を6地区に区割りし「実質化された人・農地プラン」を作成した。 今後、地元での話し合いを進め、担い手への農地集積を図っていく。	
384人	349人 <基準値以下>	D	384人	344人 <基準値以下>	D	農業者の高齢化や後継者不足のほか、主要作物である茶の価格は平成11年をピークに長期的な低迷状態にあり、生産資材の価格上昇も経営を圧迫していることから、認定農業者の新規・更新認定数が伸び悩み、離農者も増えてきている。	茶等の単作による生産体制のリスク管理として他の作物との複合経営を推進し、所得の安定を図るとともに、農家後継者の育成として新規就農者の支援を行う必要がある。	
274.1ha	170.9ha <基準値以下>	D	297.0ha	241.13ha <31.3%>	C	令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響や世界情勢等により、木材需要が不安定になったことや、ウッドショックによる木材価格の一時的な上昇により、林業経営体が間伐から皆伐へ人工を増やしたこと等が原因で達成率は低く推移したと思われる。	森林環境譲与税及び国県市の様々な補助事業により、森林所有者及び林業経営体を支援することで、森林整備の促進を図っていく。 また、計画的な森林整備を促すために、林業経営体に対し、森林経営計画の策定支援を行っていく。	森林 整備課

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)	理想値 ＜20％＞		実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40％＞	実績値 ＜達成率＞	評価	
(エ) 地域産業の競争力を高めて稼ぐ										
・地域産業の振興 ・商業・サービス産業の活性化 ・過ごしたくなるまちづくり ・企業とのマッチング促進	新規創業者数 （累計）	48人 H27～H30累計	100人 R2～R6累計		58人	85人 ＜71.2％＞	A	69人	112人 ＜目標値以上＞	S
	中心市街地の1日当たり通行量	7,792人	8,000人		7,834人	6,190人 ＜基準値以下＞	D	7,875人	6,173人 ＜基準値以下＞	D
	中心市街地の新規雇用者数の増加 （開業・新規雇用者数増）	78人 H26～H30累計	140人 R2～R6累計		90人	114人 ＜58.1％＞	A	103人	174人 ＜目標値以上＞	S

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			
79人	135人 <目標値以上>	S	90人	159人 <目標値以上>	S	新規創業者数において、目標値の100人を大幅に達成し、4年連続で順調な推移を見せており、高い実績を示している。	創業希望者の掘り起こしから、セミナーや個別相談等の支援と併せ、創業者への補助金を効果的に活用するとともに、創業後においても伴走型支援を継続することで、市内産業の活性化へとつなげていく。	商工課
7,917人	6,384人 <基準値以下>	D	7,958人	6,436人 <基準値以下>	D	・R2～R3は新型コロナウイルスの感染拡大の影響等もあり、まちなかの歩行者通行量は減少していたが、それ以降はイベント等も開催され徐々に増加傾向にある。	中心市街地内の公共空間を活用したイベントの実施や空き店舗対策等を実施することで、今後もまちなかのにぎわい創出を目指す。	
115人	180人 <目標値以上>	S	128人	246人 <目標値以上>	S	・中心市街地の雇用者は増加傾向にあり、R5の実績値は目標値を上回った。 ・産業支援センターでの相談、創業補助金や遊休不動産リノベーション応援事業補助金の活用実績から、中心市街地での創業ニーズはあると判断できた。	中心市街地の空き家が増加傾向にあるため、空き家を利活用していきたい。遊休不動産リノベーション応援事業補助金や創業補助金のニーズはあるため、創業者へ利用の促進を図っていく。	

【基本目標２】 島田市に住み、好きになる

施策の目標	基準値 (H30)	目標値 (R6)	期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
				理想値 <20%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価
計画期間中の30代の社会移動人数（暦年）	51.2人 H26～H30平均	100.0人		61.0人	74.0人 <46.7%>	A	70.7人	▲16.0人 <基準値以下>	D
計画期間中の社会移動平均人数（暦年）	▲59.8人 H26～H30平均	転入超過 R2～R6平均		転入超過	転入超過 (+69人) <目標値以上>	S	転入超過	転出超過 (▲110人) <基準値以下>	D
島田市が好きな市民の割合 (島田市総合計画市民意識調査（20歳以上）)	67.8% H28～H30平均	基準値を上回る R2～R6平均		基準値を上回る	69.4% <目標値以上>	S	基準値を上回る	73.3% <目標値以上>	S

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)			理想値 ＜20＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40＞	実績値 ＜達成率＞	評価
（ア）移住・定住の促進										
・定住化の促進 ・関係人口の創出・拡大	移住・定住相談窓口を利用した市外からの移住人数 （累計）	0人 （参考） H27～R1累計	250人 R2～R6累計		50人	51人 ＜20.4＞	B	100人	117人 ＜46.8＞	B
	移住ポータルサイトの閲覧時間 （1日平均）	74分	90分		77分	149分 ＜目標値以上＞	S	80分	353分 ＜目標値以上＞	S

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）		期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末			
	基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40＞	実績値 ＜達成率＞	評価	
(イ) シティプロモーションによるまちの魅力創造										
・シティプロモーションの推進	都市の魅力度 (地域ブランド調査)	405位	355位		395位	576位 ＜基準値以下＞	D	385位	620位 ＜基準値以下＞	D
	市公式ホームページの総 ビュー数 (年間)	3, 133, 292件	3, 500, 000件		3, 206, 634件	6, 645, 947件 ＜目標値以上＞	S	3, 279, 975件	7, 112, 593件 ＜目標値以上＞	S
	島田市緑茶化計画の取組につ いて知っていると考えた市民 の割合 (「島田市総合計画市民意識 調査」より)	29. 4% R2	40. 0%	R3年度 R2実績値を 基準値とし た	—	29. 4% ＜基準値＞	—	32. 1%	16. 2% ＜基準値以下＞	D

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の 変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)			理想値 ＜20＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40＞	実績値 ＜達成率＞	評価
(ウ) 地域を支える人材育成、多様な主体との連携										
・多様な主体と協働・連携した 地域を支える人材育成	包括連携協定による高校生主体の連携事業数 （累計）	2件	10件 R2～R6累計		4件	3件 ＜12. 5＞	B	5件	16件 ＜目標値以上＞	S
	「しずおか中部連携中枢都市圏ビジョン」のうち島田市事業分KPI達成度	65. 4%	100. 0%		72. 3%	12. 1% ＜基準値以下＞	D	79. 2%	31. 9% ＜基準値以下＞	D

R4年度末			R5年度末			基本目標の評価	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価		
80.5人	85人 <89.3%>	B	90.2人	94人 <87.7%>	B	【社会移動】 ・R2は74人の転入超過、R3は110人の転出超過、R4は246人の転入超過、R5は47人の転入超過で、計画期間中の平均では63.0人の転入超過となり、目標を上回る結果となった。 ・年齢別では、計画期間中の4年間で、0～9歳が255人、30～39歳が94人の転入超過となっており、子育て世帯が増加していることが推測できる。 一方で、15～19歳が203人、20～24歳が293人の転出超過となっており、就学や就職による転出が多いと推測される。 【島田市が好きな市民の割合】 ・R2は69.4%、R3は73.7%、R4は77.9%、R5は72.3%で、4年間の平均は73.5%となり、目標値を上回る結果となった。 ・「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点としたときの幸福度の平均は6.9であった。基準年（H30）は6.6であったことから0.3の増であったが、前年度は過去最高の7.0であったため前年度比は0.1の減となった。 ・引き続き、「島田市緑茶化計画」を旗印とした戦略的なシティプロモーションを展開し、市民生活の中に浸透させることで、市民の「島田愛」醸成を図っていく。	戦略推進課
転入超過	転入超過 (+68.3人) <目標値以上>	S	転入超過	転入超過 (+63.0人) <目標値以上>	S		
基準値を上回る	73.9% <目標値以上>	S	基準値を上回る	73.5% <目標値以上>	S		

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			
150人	151人 <80.4%>	B	200人	217人 <86.8%>	B	新型コロナ感染症拡大により、移住者が増加したと考えられるが、それに合わせて推進してきた取り組みの効果があつた。 サイトをリニューアルし、見やすく分かりやすいサイトになったことや、サイト訪問者数の分析を行い、サイト内記事の内容やコンテンツの拡充を行うことで、ページビュー数が上がり、閲覧時間も向上した。	課題である島田市の認知度を向上させるため、シティプロモーション活動を行うとともに、移住相談イベントやセミナーなどの取り組みを継続して行っていく。 移住者インタビュー記事の追加や、コンテンツの充実など、移住者のニーズに合わせたサイトに育てるとともに、訪問者数を増加させるためにSNS等を活用した情報発信を図る。	広報プロモーション課／観光課
84分	167分 <目標値以上>	S	87分	172分 <目標値以上>	S			

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			
375位	480位 <基準値以下>	D	365位	491位 <基準値以下>	D	新型コロナウィルスの拡大によるプロモーション活動の制限があつたことや、県外向けの情報発信が不十分だったため、目標が達成できていない。 令和2年度に島田市LINE公式アカウントを開設し市ホームページへ誘導するようにしたこと、コロナウィルス下という特殊な環境下で、新型コロナウイルス感染症に対する「まん延防止等重点措置」適用などの情報源が市ホームページであつたことから、アクセス数が上昇した。 島田市緑茶化計画についてはプロモーション活動が減つているとともに、新型コロナウィルスの拡大によるプロモーション活動の制限があつたため、このような結果になったと考えられる。	情報発信においては、ターゲットを定め、SNS等を活用した適切な発信方法を展開していく。 さらに、他課との連携は市外・県外への発信力強化に効果的であると考え、庁内におけるシティプロモーションの意識醸成を図っていく。 LINEでの情報発信のみを行い、情報元となるホームページの記事制作が疎かにならないよう、各所属に対してページ制作（着地点整備）の必要性を伝えるとともに、ウェブサイトの上り方や適切なページ制作等に関する研修を行い、市民にとって分かりやすい、見やすいウェブサイトを目指す。 市のみならず、市民や市内事業者等も交えた活動を推進することで、市内の機運醸成を図るとともに、取組規模を拡大させ、事業の認知を拡大させる。	広報プロモーション課
3,353,317件	6,224,767件 <目標値以上>	S	3,426,658件	5,296,262件 <目標値以上>	S			
34.7%	11.4% <基準値以下>	D	37.4%	11.5% <基準値以下>	D			

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			
7件	22件 <目標値以上>	S	8件	30件 <目標値以上>	S	学習指導要領の改訂により、「探究」が最新トレンドとなり、高校が地域や地元企業とのつながりを求められるようになったため、基準値を大幅に上回った。 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、イベントが開催できない時期があつたこと、トーマスフェアの来場者が年々減少していることから実績値は基準値以下となった。 また、令和4年9月の台風15号の影響により大井川鐵道が一部不通となり、千頭会場でトーマスフェアが開催できなくなったため、キャンプフェスタや人気アニメゆるキャン△を活用したPR等、アウトドアを中心とした新たな事業に取り組み、誘客につなげた。	引き続き、連携事業を続けることで、高校生が地域との関わりを持ち、身近に存在するモノの価値に気付くとともにシビックプライドを醸成することで、地元に住み続ける、将来地元に戻って生活したいという気持ちを持ってもらうことにつなげる。 探究の授業を各学校で展開しているが、各々企業の紹介や連携の依頼があるため、既存のプラットフォーム等を活用した商工会議所、商工会等を含めた連携体制を構築する必要がある。 ゆるキャン△関連のSNS告知などでは、高いビュー数やエンゲージメントを記録した。 加えて、イベント出展においてもオリジナルグッズの物販を告知すると、それを目的とした来場者が多く訪れ、実際に現地に来訪していると話す方もいたことから、今後もトーマスフェア等、認知度の高い大井川鐵道に加え、アウトドアやゆるキャン△についても継続してプロモーションしていくことで、更なる誘客につなげていく。	市民協働課／戦略推進課
86.2%	61.0% <基準値以下>	D	93.1%	57% <基準値以下>	D			

【基本目標3】 希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんなかに子育てする

施策の目標	基準値 (H30)	目標値 (R6)	期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
				理想値 <20%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価
合計特殊出生率 (県において期間で算出) (5年に1回公表)	1.51	1.60		1.53	未公表	—	1.55	未公表	—
年少人口比率 (市算出)	12.6%	12.1%		12.5%	12.4 <基準値以下>	D	12.4%	12.3% <基準値以下>	D

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）		期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末			
	基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40＞	実績値 ＜達成率＞	評価	
(ア) 出逢い、恋して、結婚する										
・ 出逢いの場づくりの支援	島田市結婚支援ネットワーク加入団体の支援により成婚した組数 (累計)	—	15組		3組	5組 ＜33.3＞	A	6組	13組 ＜86.7＞	A

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）		期間中の 変更履歴	R2年度末			R3年度末			
	基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40＞	実績値 ＜達成率＞	評価	
（イ）妊娠、出産する										
・妊娠・出産に関する正しい知識 の普及と相談体制の確保 ・不妊等に悩む方への支援 ・妊娠・出産に向けての支援	赤ちゃん訪問（乳児家庭全戸 訪問）の訪問率 （年間）	100.0%	100.0%		100.0%	100.0% ＜目標値以上＞	S	100.0%	100.0% ＜目標値以上＞	S

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）		期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末			
	基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40＞	実績値 ＜達成率＞	評価	
(ウ) 子どもをまんなかに子育てする										
	担当保健師がいることを知っている保護者の割合 (7か月児、1歳6か月児を持つ保護者)	74.0% R2	80.0%	R3年度 R2実績値を 基準値とした	—	74.0% ＜基準値＞	—	75.5%	93.8% ＜目標値以上＞	S

・ 妊娠・出産・子育てに対する負担感の軽減 ・ 子育て支援体制の充実 ・ 子どもの健康の確保及び増進 ・ 地域・社会全体で子育てを支える機運の醸成	担当保健師がいることを知っている保護者の割合 （7か月児、1歳6か月児を持つ保護者）	74.0% R2	80.0%	R3年度 R2実績値を 基準値とした	—	74.0% <基準値>	—	75.5%	93.8% <目標値以上>	S
	保育所等の利用申込者数に対する待機児童数の割合 （翌年4月1日現在）	0.0%	0.0%		0.0%	0.0% <目標値以上>	S	0.0%	0.0% <目標値以上>	S
	放課後児童クラブの利用申込者数に対する待機児童数の割合 （翌年4月1日現在）	8.8%	0.0%		7.0%	9.6% <基準値以下>	D	5.3%	5.5% <37.5%>	B
	職場で男女が平等であると思う市民の割合 （「島田市総合計画市民意識調査」より）	23.2%	30.0%		24.6%	22.5% <基準値以下>	D	25.9%	23.2% <基準値以下>	D

R4年度末			R5年度末			基本目標の評価	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価		
1.56	未公表	—	1.58	1.41 <基準値以下>	D	【合計特殊出生率】 - 基準値1.50（H27調査）に対し、実績値は1.41（R2調査）と低下したが、全国1.33、静岡県1.39を上回った。 【年少人口比率】 - 基準年と比較し、年少人口が1,138人減少し、高齢人口は597人増加した。 - また、基準年と比較し、出生数が150人減少し、死亡数が173人増加した。 0～9歳の社会移動は例年転入超過であるものの、継続した出生数の減少と高齢者人口の増加が年少人口比率の減少に大きく影響を与えていると考えられる。 総人口 基準年：98,757人、R4年12月：96,496人（基準年比▲2,261人）、 R5年12月：95,698人（基準年比▲3,059人、前年比▲798人） 年少人口 基準年：12,463人、R4年12月：11,687人（基準年比▲776人）、 R5年12月：11,325人（基準年比▲1,138人、前年比▲362人） 生産年齢人口 基準年：56,159人、R4年12月：54,121人（基準年比▲2,038人）、 R5年12月：53,641人（基準年比▲2,518人、前年比▲480人） 高齢人口 基準年：30,135人、R4年12月：30,688人（基準年比+553人）、 R5年12月：30,732人（基準年比+601人、前年比+44人） 平均年齢 基準年：48.0歳、R4年12月：48.7歳（基準年比+0.7歳）、 R5年12月：49.0人（基準年比+1.0歳、前年比+0.3歳） 出生数 基準年：664人、R4年：553人（基準年比▲111人）、 R5年：514人（基準年比▲150人、前年比▲39人） 死亡数 基準年：1,168人、R4年：1,320人（基準年比+152人）、 R5年：1,341人（基準年比+173人、前年比+21人）	戦略推進課
12.3%	12.1% <基準値以下>	D	12.2%	11.8% <基準値以下>	D		

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			
9組	25組 <目標値以上>	S	12組	28組 <目標値以上>	S	令和2年度から新型コロナウイルスの影響により、イベント等の開催が困難であったが、その中でも相談、支援を継続して行い、目標値を達成することができた。	令和5年度中にネットワークの中核団体が活動を終了したことから、今後の活動などについて検討する必要がある。 ふじのくに出会いサポートセンターへの登録を推進していく。	子育て応援課

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			
100.0%	100.0% <目標値以上>	S	100.0%	100.0% <目標値以上>	S	4年間続けて実施率100%を実現することで、子育て孤立化を防ぎ、支援が必要な家庭を適切なサービスに結び付けることができた。	引き続き島田市版ネウボラにより妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目ない支援を行う。 出生後自身の体調や慣れない育児で大変な時期に、保健師が訪問することで不安を取り除き、安心して育児ができるように赤ちゃん訪問の実施率100%を目標とする。	健康づくり課

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の 変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)			理想値 ＜20%＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40%＞	実績値 ＜達成率＞	評価
（エ）豊かな心をもった子どもを育成する										
・個に焦点を当てた授業の推進 ・多様な体験活動の充実 ・子どもたちの成長を支える 連携した教育の推進 ・安心・安全な学校づくり	自分にはよいところがあると 答えた児童の割合 （市内小中学校が行う学校評 価データ）	84.9% H30～R1平均	基準値を 上回る R2～R6平均		基準値を 上回る	85.0% ＜目標値以上＞	S	基準値を 上回る	81.6% ＜基準値以下＞	D
	自分にはよいところがあると 答えた生徒の割合 （市内小中学校が行う学校評 価データ）	70.3% H30～R1平均	基準値を 上回る R2～R6平均		基準値を 上回る	75.1% ＜目標値以上＞	S	基準値を 上回る	71.1% ＜目標値以上＞	S

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			
基準値を上回る	80.8% <基準値以下>	D	基準値を上回る	81.5% <基準値以下>	D	80%以上の高い割合を維持できており、児童が安心して学校に通うことができていると考えられる。新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことで世の中が不安定になったり、体験が制限されてしまったりした中でも、各校が創意工夫を凝らし教育課程を実践してきたことが結果につながったと推察する。	新型コロナが5類に移行したことで、体験活動、地域の方との関わりを通して探究的に学ぶ機会等を増やし、より児童が主体となる学習を推進する。体験や交流の機会を効果的に設定し、児童が自分・地域・周りの人を大切に思う心を育成する。また、関係の方々と連携して、個に寄り添った生徒指導やきめ細やかな就学支援を継続する。	学校教育課
基準値を上回る	72.5% <目標値以上>	S	基準値を上回る	74.3% <目標値以上>	S	70%以上の割合を維持できており、生徒が安心して学校に通うことができていると考えられる。新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことで世の中が不安定になったり、体験が制限されてしまったりした中でも、各校がSOやSSW等と連携し、個に応じた懇ろな指導を継続してきたからこそその結果だと推察する。		
KPIはないが、具体的な施策に取組が記載されているもの						・地域学校協働本部事業は、令和2年度から、島田第一中学校区を除く市内中学校区、令和3年度には、市内全中学校区に本部を設置、令和4年度からは、市内全小・中学校区に本部を設置した。学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と連携した中で、学校と地域をつなぐ地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を学校に配置し、緩やかな地域のネットワークを形成し、子供の学習支援や見守りなど、地域ボランティアの協力を得ながら、学校、地域が連携・協働し、子供たちの学びや成長を支える活動が実施できた。 ・「しまだはつくら寺子屋」は、地域の教育力を活用して、放課後や夏季・冬季における学習を支援を実施した。また、初倉放課後子供教室フレンズクラブ事業では、地域のコーディネーターやボランティアに協力いただき、放課後における子供たちの安全な居場所づくりを確保し、陶芸教室や、野外活動、レクリエーション等を実施した。 ・「家庭教育講座」の実施日の検討や親のニーズに沿った内容で、各年齢層に合わせた託児付きの講座をを開催した。 ・次代を担う子供たちが、他校児童との交流や異年齢での集団活動を通して心身ともに健やかでたくましく成長するよう、野外活動を中心とした少年育成教室「しまだガンバ」を実施した。 ・期間中、いずれの事業も、コロナ禍での事業展開とな	地域学校協働本部事業については、令和6年度以降も全小・中学校にコーディネーターを配置し、学校運営協議会と一層連携し、学校や地域の実情にあった取り組みを展開していく。 学校により活動の充実度にはばらつきがあることから、コーディネーター相互の連携と情報の共有を促し、効果的な事業運営ができるよう努めていく。 少年育成教室「しまだガンバ」については、少子化により児童数が減少するなか、事業を支援していただく方の確保を含めた運営方法について随時検証し、限られた財源や人材での運営方法や事業展開を構築していく。 参加者数が減少している中学生対象の寺子屋事業については、学校との協議のうえ実施内容を見直し、小学6年生を対象とした学習会に変更し夏休み中に実施することとした。今後も状況に応じた改善を図っていく。	学校教育課

【基本目標４】 水と緑に囲まれた健康長寿の暮らしやすいまちづくり

施策の目標	基準値 (H30)	目標値 (R6)	期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
				理想値 <20%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価
地域カストック指標	2.46 R1	2.50		2.47	未公表	—	2.48	未公表	—
島田市の住みごちがよいと感じる市民の割合 (島田市総合計画市民意識調査)	84.2% H26～H30平均	基準値を上回る R2～R6平均		基準値を上回る	85.5% <目標値以上>	S	基準値を上回る	86.8% <目標値以上>	S

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)			理想値 ＜20＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40＞	実績値 ＜達成率＞	評価
（ア）持続可能なまちづくりの推進										
・「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりの推進 ・「地域拠点の形成」の推進 ・まちなか暮らしの促進 ・過ごしたくなるまちなかづくり	コンパクト・プラス・ネットワークの推進が重要だと思う市民の割合 （「島田市総合計画市民意識調査」より）	54. 2% R2	70. 0%	R3年度 R2実績値を基準値とした	—	54. 2% ＜基準値＞	—	58. 2%	51. 8% ＜基準値以下＞	D
	中心市街地の居住人口の増加 （居住人口増）	▲69人 H26～H30累計	+40人 R2～R6累計		▲47人	▲39人 ＜27. 5%＞	B	▲25人	9人 ＜71. 6%＞	A

R4年度末			R5年度末			基本目標の評価	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価		
2.48	未公表	—	2.49	未公表	—	【島田市の住みごこちがよいと感じる市民の割合】 ・R2は85.5%、R3は86.7%、R4は88.8%、R5は85.5%で、4年間の平均では86.7%となり、目標値を上回る結果となった。 ・R5の内訳は「住みよい」が25.6%、「まあ住みよい」が59.9%であった。「住みよい」は基準年度（H30）と比べ1.5%増加したものの、前年度比では1.8%減少した。「まあ住みよい」は基準年度（H30）と比べ1.2%減少、前年度比では1.5%減少した。 ・一方、「やや住みにくい」、「住みにくい」は、基準年度（H30）には12.9%、前年度は9.7%と減少していたが、令和5年度は10.8%と基準年度（H30）からは減少したが、前年度比では増加した。	戦略推進課
基準値を上回る	87.1% <目標値以上>	S	基準値を上回る	86.7% <目標値以上>	S		

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			

62.1%	54.0% <基準値以下>	D	66.1%	47.2% <基準値以下>	D	令和2～3年度の間に立地適正化計画の策定を進め、令和4年4月1日に本計画を公表することで、島田市におけるコンパクト・プラス・ネットワークの推進に関する方向性を示すことができた。	引き続き、市民や職員に向け立地適正化計画に関する周知を行い、認知度を高めていく。特に、市内学校において授業での支援を行い、次世代におけるコンパクト・プラス・ネットワークに関する理解を深めていく。	都市政策課
▲4人	▲89人 <基準値以下>	D	+18人	▲67人 <基準値以下>	D	新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に人口が減少したものの、R5時点では、基準値まで戻り、今後は増加傾向にあると考える。中心市街地の居住人口を増やすために、中心市街地で暮らすことで受けられる恩恵（例えば、周辺住民との繋がりがりや地域活性化による賑わい）を伝えていく必要があると考える。	引き続き、中心市街地の賑わい創出を目的に、リノベーションまちづくり推進事業及び公共空間を利用したイベントの開催を実施していく。	商工課
			KPIはないが、具体的な施策に取組が記載されているもの			出前講座は4年間累計で119回、5,267人もの市民が参加し、防災に関する知識の普及・啓発を行った。指定避難所への防災資機材、衛生用品等について、ライフライン復旧までの間（概ね4日間位）を目安に避難生活に必要な最低限度の備蓄品等を整備した。	訓練の実施・検証により、各種計画やマニュアルの見直しを継続する。出前講座、会議、講演会等の開催により、市民や地域の防災に対する意識を向上させ、地域防災力の強化を図る。	危機管理課

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
	基準値 (H30)	目標値 (R6)	理想値 <20%>		実績値 <達成率>	評価	理想値 <40%>	実績値 <達成率>	評価	
(イ) 誰もが暮らしやすいまちづくりの推進										
・多文化共生・地域共生のまちづくり ・健康の保持増進と食育の推進 ・高齢者の健康・生きがいをづくりと社会参加の促進 ・スポーツの振興 ・生涯学習の振興	お達者度（男性） （県において算出）	18.50年	19.18年		18.64年	18.32年 <基準値以下>	D	18.77年	18.67年 <25.0%>	C
	お達者度（女性） （県において算出）	21.60年	22.53年		21.79年	21.66年 <6.5%>	C	21.97年	21.82年 <23.7%>	C
	健幸マイレージに取り組んだ人数 （年間）	1,300人	1,700人		1,380人	997人 <基準値以下>	D	1,460人	836人 <基準値以下>	D

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			
18.91年	18.84年 <50.0%>	B	19.04年	未公表	—	第3次島田市健康増進計画及び第3次島田市食育推進計画に基づき、関係機関と連携して健康の保持増進と生活習慣病の発症予防及び重症化予防等を重点に保健事業を実施した。 【高齢者の健康・生きがいがいづくりと社会参加の促進】 お達者度は年々良好傾向にある。老人クラブ活動以外の高齢者の生きがい活動の場が増えており、総合的な生きがい活動の機会の増加が良好につながっていると考える。 老人クラブ活動についても、その他の生きがい活動同様さらなる活動の推進をサポートする必要がある。 4年間において、特定健診・後期高齢者健診の受診率は新型コロナウイルスの影響を受けながらも増加しており、健診結果を基とした保健事業の展開に繋がった。そうした保健事業の推進が、平均自立期間（お達者度）の延伸に寄与できたと考える。	第4次島田市健康増進計画及び第4次島田市食育推進計画に基づき、関係機関と連携して健康の保持増進と生活習慣病の発症予防及び重症化予防等を推進する。 また、自然に健康になれる環境整備を進めることで、健康に無関心でも健康になれる仕組みづくりを進めていく。 【高齢者の健康・生きがいがいづくりと社会参加の促進】 老人クラブへの新規参加者が少なく、クラブ数・会員数が減少しているため、広報紙の配布等により会員増加に努める。 健診の受診をはじめ、糖尿病重症化や高血圧対策等の保健事業、高齢者の一体的実施事業の推進を継続拡大することで、医療費の削減等が期待でき、また若い年代からの習慣付けにより市民全体の健康の維持増進を図りたい。	健康づくり課 長寿介護課 国保年金課
22.16年	22.07年 <50.5%>	B	22.34年	未公開	—	新型コロナウイルスの影響が大きい中でも、感染防止に努めながら各事業を可能な限り実施し、市民主体の活動についても支援を行った。 感染状況を考慮しつつ、事業を再開する中では、各事業それぞれで市公式LINEを活用するなど、新しい周知方法を取り入れ、積極的に広報を実施した。 事業内容についても、市内の実情に合わせて随時見直しを図った。	【高齢者の健康・生きがいがいづくりと社会参加の促進】 ●パワーリハビリ教室 環境の改善を図るとともに、サポーターの養成も推進し、令和6年度からコース数、定員数を増やして教室を運営する。令和6年度はマシンを更新し、金谷会場を夢づくり会館からかなうへへ移設し、さらなる実施環境の改善を図る。 ●シニアトレーニングサポーター養成講座 今後も受講希望者のニーズに合わせて開催日程や内容を検討し、積極的な広報を実施していく。 ●元氣・脳力アップ塾 会場の選定方法の見直しを行い参加者の増加を図るほか、新規の参加者へ周知を行えるよう広報の方法や内容を検討していく。 ●脳の健康度テスト 周知方法の工夫により、定期開催の受講人数は前年度と比較して増加しているものの、出前講座の依頼が無かったため、出前講座に関しても周知を工夫していく必要がある。 ●地域ふれあい事業 スタッフの高齢化等を理由に活動を休止する団体があったり、参加者の高齢化に伴い参加に困難が生じるケースがある。 無理なく活動ができるよう訪問等を行い、各団体からの意見を積みながら、市としての支援体制について検討していく。	包括ケア推進課
1.540人	910人 <基準値以下>	D	1.620人	1,000人 <基準値以下>	D	コロナにより応募人数は若干減っていたが、その後は増えつつある。	今後もマイレージの普及啓発を行い、一人でも多く参加できるようにする。	健康づくり課
K P Iはないが、具体的な施策に取組が記載されているもの						【多文化共生・地域共生のまちづくり】 市内介護保険事業所から障害福祉サービス等の事業について新規指定希望はなかった。	【多文化共生・地域共生のまちづくり】 介護サービス担当課と連携しながら指定を希望している事業所に対しての説明等を積極的に行っていく。	福祉課
						「やさしい日本語」通信を庁内掲示板で掲載し、庁内での普及、啓発に努めてきた。 「外国人のための日本語教室」を社会教育課から移管し、文化振興課が島田市国際交流協会を支援しながら、多文化共生事業として実施した。 国際交流協会と連携して、「外国人のための日本料理教室」を実施し、地域住民と外国人住民との交流の場を創出した。	「やさしい日本語」を、庁内の研修、市内の出前講座等で普及、啓発するとともに、やさしい日本語版「ごみの出し方」「災害発生時の手引き」を作成する。 日本語教育を核とした国際交流協会の多文化共生事業について、市として支援・連携・協力しながら実施する。 外国人住民の増加に伴うさまざまな課題について、関係課や関係機関、自治体、企業などと情報共有しながら、対応を検討していく。	文化振興課
						【生涯学習の振興】 生涯学習推進大綱周知活動は、広報やラジオを通じ生涯学習について市民に周知してきた。 フェスタしまだの生涯学習コーナーでは市民と接し生涯学習への取り組み状況などについて聞き取り調査を行い、生活への生涯学習の浸透度を確認することができた。 この4年間にはコロナ禍の影響も受けた期間であったが、影響を最小限に留めるよう感染症対策を講じた上で、学習の機会を設けてきた。フェスタしまだ、金谷宿大学の成果発表会も規模を縮小した時期もあったが、成果発表会の内容から生涯学習の振興には寄与できたものと評価している。	【生涯学習の振興】 第2次生涯学習推進大綱に基づき、課題解決の一助となる学習機会を提供するとともに、機会の提供者（講師など）となる人材を育成することに取り組む必要がある。 第2次生涯学習推進大綱の記載内容について、生涯学習推進協議会委員を中心に引き続き検証していく。 また、生涯学習推進大綱周知活動は、広報しまだ特集記事掲載などの活動を行っている。 生涯学習大会「フェスタしまだ」、金谷宿大学等については、受講生の運営参加内容について負荷軽減を図る。 負担にならない程度の協力要請に留め、新たな生涯学習への参加者増を促進したい。 楽習センターなどで実施している社会教育講座は、健康を意識して参加している市民も多いことから、健康マイレージの取り組みに係る事業紹介や実践の場として活用を促していくことで、実績値の向上につなげることも可能と考える。	社会教育課
						ニュースポーツの各所教室や大会等は、これまで新型コロナウイルス感染症の影響により中止や規模縮小となっていたが、令和4年度からは感染症対策を講じて実施することで、参加者が回復した。	引き続きニュースポーツの各種教室等を開催し、参加者数の回復を図る。 また、スポーツ推進委員会を中心にバラスポーツ「ポッチャ」の普及に努め、障害の有無に関わらず誰もがスポーツを楽しむことのできる機会を提供する。	スポーツ振興課

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）			期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末		
		基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20%＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40%＞	実績値 ＜達成率＞	評価
（ウ）地域包括ケアの推進										
・救急医療体制の維持 ・島田市民病院における医療体制の充実と新病院建設事業の推進 ・在宅医療の整備 ・包括的なサービス提供のための取り組み ・地域で支える仕組みづくり	しまとれ実施箇所数 （年度毎累計）	69か所	135か所		82か所	86か所 ＜25. 8%＞	B	95か所	91か所 ＜33. 3%＞	B
	居場所づくり事業実施箇所数 （年度毎累計）	59か所	95か所		66か所	68か所 ＜25. 0%＞	B	73か所	73か所 ＜38. 9%＞	B
	地域高齢者見守りネットワークづくりの協力事業所数 （年度毎累計）	133事業所	200事業所		146事業所	153事業所 ＜29. 9%＞	B	160事業所	190事業所 ＜85. 1%＞	A
	在宅看取りの率 （在宅死亡者の率） （年間）	37. 1%	38. 0%		37. 3%	36. 7% ＜基準値以下＞	D	37. 5%	41. 8% ＜目標値以上＞	S

具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）		期間中の変更履歴	R2年度末			R3年度末			
	基準値 (H30)	目標値 (R6)		理想値 ＜20％＞	実績値 ＜達成率＞	評価	理想値 ＜40％＞	実績値 ＜達成率＞	評価	
（エ）効率的で、持続性の高い公共交通体系の構築										
・公共交通網等の充実 ・民間鉄道による移動手段の確保	地域公共交通利用者数 （年間）	251, 472人	260, 000人		253, 178人	186, 081人 ＜基準値以下＞	D	254, 883人	162, 037人 ＜基準値以下＞	D
	新たな手段による公共交通の 運行を開始した地区の数 （年度末現在）	0地区	8地区		2地区	2地区 ＜25. 0％＞	B	3地区	5地区 ＜62. 5％＞	A
	地域公共交通運行平均収支率 （年度末現在）	16. 2%	20. 0%		17. 0%	10. 1% ＜基準値以下＞	D	17. 7%	9. 7% ＜基準値以下＞	D

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			
109か所	97か所 <42.4%>	C	122か所	102か所 <50.0%>	C	実施箇所数も100か所以上という大台に乗せることができた。ここから継続して団体の活動できるように働きかけていく必要がある。	1年支援のような継続的な支援を実施していき、団体の抱える課題を取り除くことや、モチベーションの向上に努めていく。	包括 ケア 推進課
81か所	73か所 <38.9%>	C	88か所	70か所 <35.5%>	C	高齢化やコロナなどの影響により、既存団体の消滅が増え、新規立ち上げはあまり進まなかったため、目標を達成できなかった。	既存団体の維持存続が大きな課題になっているため、今後はそちらに注力していきたい。	包括 ケア 推進課
173事業所	193事業所 <89.6%>	A	187事業所	236事業所 <目標値以上>	S	【地域高齢者見守りネットワークづくりの協力事業所数】協力事業所数が目標値を大きく超えており、市内における見守りネットワークの拡大については目標を達成した。今後は適切な見守りの体制を維持するため、さらなる事業周知が重要である。	市内事業所を個別訪問したり多数の事業所が集まる機会に説明の場を設けたりすることで、協力事業所数の増加に努め、ネットワークを広げていく。協力事業所連絡会を開催し、高齢者の見守りに必要な知識習得のための研修を実施する。	長寿 介護課
37.6%	43.9% <目標値以上>	S	37.8%	未公表	—	24時間対応可能な訪問看護体制に加え、新たな民間訪問看護ステーションや在宅療養支援病院の開設など、地域の医療・介護資源が増えたことや、医療材料提供体制の整備、医療・介護関係者間の連携強化の取組などにより、効果が表れていると考える。	在宅医療を担う地域の医師不足が深刻な状況にあるため、往診や訪問診療を行う医師の負担軽減につながる在宅医療環境整備の取組について、在宅医療・介護連携部会で検討していく。また、退院支援を取り巻く現状と課題について理解を深めるため引き続き病院看護部との連携強化を図っていく。	包括 ケア 推進課

R4年度末			R5年度末			4年間の総合評価 (令和2年度～令和5年度)	今後の取組と施策展開	担当課
理想値 <60%>	実績値 <達成率>	評価	理想値 <80%>	実績値 <達成率>	評価			
256,589人	171,814人 <基準値以下>	D	258,294人	176,645人 <基準値以下>	D	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に利用者数及び収支率が大きく減少し、コロナ前の水準まで回復できない状態が続いた。しかし、利用者アンケートや主要施設への聞き取り等による意見収集、ダイヤ改正やバス停追加などの利便性向上策の実施により、令和4年度以降は徐々に利用者数が増加している。	運転士不足及び原油高、円安等による燃料費の上昇等により、運行経費の上昇は続く見込まれる。将来にわたり持続可能な公共交通網を構築するため、令和5年度に「島田市地域公共交通計画」を策定した。今後は計画に基づき、各地域内を移動するための公共交通について、地域住民にとってより利用しやすい形態に変えていくため、ワークショップ等を通して住民と一緒に検討を進めていく。	生活 安心課
5地区	6地区 <75.0%>	A	6地区	8地区 <目標値以上>	S	令和元年度に鍋島町内会が「ゆめバス」を運行開始して以降、車両提供や燃料費負担により活動継続の支援が続けてきた。ドライバーの熱意により高齢者学級や社会見学などの送迎も企画されており、利用者数や運行地域は徐々に増加している。ドライバー自身も高齢化しており、今後は新たな担い手の確保が重要課題となっている。	鍋島町内会に引き続き車両の貸与や必要経費の支援を行い、運行を継続してもらう。NPO法人と調整を継続し、事業開始の可能性を探る。公共交通計画策定に向けて市民との意見交換を行う中で、鍋島以外でのJR駅から離れた中山間地域への水平展開の可能性を探る。	
18.5%	10.0% <基準値以下>	D	19.2%	10.4% <基準値以下>	D	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に利用者数及び収支率が大きく減少し、コロナ前の水準まで回復できない状態が続いた。しかし、利用者アンケートや主要施設への聞き取り等による意見収集、ダイヤ改正やバス停追加などの利便性向上策の実施により、令和4年度以降は徐々に収支率が増加している。	令和5年度に策定した「島田市地域公共交通計画」に基づき、利用促進策や収支改善策を実行していく。公共交通網の見直し作業の中では、利便性を損なわないよう配慮しつつ、収支率の向上はもちろん、利用者数の増加を目指していく。	